

これまで、「基礎・基本」定着状況調査では、各教科の調査問題において、各設問の通過率や誤答の状況から児童生徒のつまずきを把握し、今後の学習指導の改善・充実を図ることができるよう取組を進めてきました。

今回は、これまで実施してきた16年間の結果を振り返り、見えてきた課題について分析を行っています。

解答の正誤だけではなく、児童生徒一人一人がどこでつまずいているのかを的確に把握するためには、解答類型を基にした誤答分析を行うことが必要です。また、解答類型には現れていない個々のつまずきの具体を把握するためには、児童生徒の実際の解答を見て、これまでの学習のどの段階でつまずいているのかを分析することが大切です。さらに、その個々のつまずきに応じた適切な指導が必要です。

教科の課題と指導改善のポイントを参考に、各学校において自校の数値と比較しながら、分析を行ってください。校内研修でも活用し、全教職員で組織的に取り組むことで、授業改善を進めていただきたいと思います。

【解答類型とは】

児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握できるよう、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのもの。

(例) 平成29年度「基礎・基本」定着状況調査 中学校 数学 タイプI 8 (1)

8 (1) ある中学校の2年生の生徒60人について、最近1か月に読んだ本の冊数を調べました。

下の表は、その結果をまとめたものです。読んだ本の冊数の最頻値さいひんち(モード)を求めなさい。

読んだ本の冊数(冊)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
人数(人)	7	6	14	10	8	6	6	2	1	60

【解答類型】

解答類型			割合(%)
1	○	3	53.4
2	×	14	6.3
3	×	9, 1	7.3
4	×	4	2.3
5	×	10	0.4
6	×	5, 8	2.5
7	×	6	10.4
8	×	類型1~7以外で、表の中にある数値を解答しているもの	2.5
9	×	上記以外の解答	7.6
0	—	無解答	7.4

このように解答した生徒は、表の中に最も多く出てくる数字の「6」をこの問題の答えとしていることが考えられる。これは、最頻値が「資料の中で、最も多く出てくる値」であることは覚えているが、この表の表す意味について理解できていないと考えられる。

◆ 教科の継続的な課題と指導改善のポイント

【小学校】

国語	○文章の構成	71
	○情報の取り出し・情報を関係付けた記述	73
算数	○複合図形の面積	75
	○一つの式で表す	77
理科	○回路のつなぎ方	79
	○太陽の位置と影の関係	81

【中学校】

国語	○叙述の仕方の確認	83
	○登場人物の心情の把握	85
数学	○グラフ上の点	87
	○関係を文字式で表す	89
理科	○力の表し方	91
	○独立変数と従属変数	93
英語	○適切な質問を考え英文を書く	95
	○情報を基にした概要や要点の理解	97

◆ 平成29年度タイプⅡの設問についての教科の課題と指導改善のポイント

【小学校】

算数	○二つの折れ線グラフの関連付け	99
----	-----------------	----

【中学校】

国語	○要旨の把握	101
数学	○問題解決の方法の説明	103
理科	○状態変化のグラフ	105